

高頻度データによるエルゴード的拡散過程モデルの パラメータ変化時刻の推定

渡名喜 庸蔵¹, 貝野友祐², 内田雅之¹

1. 大阪大学大学院 基礎工学研究科,
2. 神戸大学大学院 海事科学研究科

研究の動機および位置づけ

変化点問題はもともと品質管理の分野で注目された。その分野では、品質維持のために品質に変化がないかを調べ、もし変化があれば、その変化が起きた時刻を調査する必要がある。変化点問題について考えることは重要である。近年では、変化点問題は金融や経済学、医学など変化に関心のある分野で発展してきた。とくに拡散過程モデルは株価の変動などを記述するモデルであり、我々はそのような確率的現象の揺らぎ (**拡散パラメータ**) および長期的な動向 (**ドリフトパラメータ**) の変化に関心がある。

高頻度データに基づくエルゴード的拡散過程モデルのパラメータ変化検出に関する先行研究はいくつかあるが (例えば Negri and Nishiyama [1] や Tonaki et al. [2]), 変化時刻の推定についてはほとんどない。そこで本研究では、ある変化検出法により拡散パラメータまたはドリフトパラメータの変化が検出された場合のその変化時刻の推定について考える。

モデル

d 次元拡散過程モデル

$$dX_t = b(X_t, \beta)dt + a(X_t, \alpha)dW_t, \quad X_0 = x_0.$$

- パラメータ空間 $\Theta = \Theta_A \times \Theta_B \subset \mathbb{R}^p \times \mathbb{R}^q$ はコンパクト凸集合,
- $\theta = (\alpha, \beta) \in \Theta$ は未知パラメータ, $\theta^* = (\alpha^*, \beta^*)$ は真値,
- $\{W_t\}_{t \geq 0}$ は r 次元標準 Wiener 過程,
- 拡散係数 $a: \mathbb{R}^d \times \Theta_A \rightarrow \mathbb{R}^d \otimes \mathbb{R}^r$, ドリフト係数 $b: \mathbb{R}^d \times \Theta_B \rightarrow \mathbb{R}^d$ は θ を除いて既知の関数

離散観測データ $\{X_{t_i}\}_{i=0}^n, t_i = ih_n$ (h_n はきざみ幅).
 $n \rightarrow \infty$ のとき

- $h_n \rightarrow 0$ (高頻度観測),
- $T = nh_n \rightarrow \infty$ (長期観測),
- $nh_n^2 \rightarrow 0$.

拡散過程モデルにおけるパラメータ変化は右図のようなものである. 本発表では, このようにパラメータが変化する拡散過程モデルのパラメータ変化時刻の推定問題について考える.

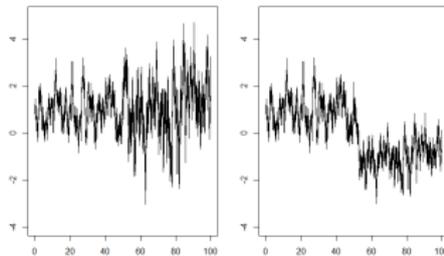


Figure 1: 左は拡散パラメータが変化, 右はドリフトパラメータが変化した様子.

ドリフトパラメータの変化時刻の推定*

[1] や [2] などの変化検出法により拡散パラメータ α の変化は検出されなかったが、ドリフトパラメータ β の変化は検出されたと仮定する。

設定: α は変化しないが β は 1 回だけ変化する

- $\tau_*^\beta \in (0, 1)$ が存在して $\beta^* = \begin{cases} \beta_{1,n}^* =: \beta_1^*, & t \in [0, \tau_*^\beta T), \\ \beta_{2,n}^* =: \beta_2^*, & t \in [\tau_*^\beta T, T]. \end{cases}$
($\beta_1^*, \beta_2^* \in \text{Int}\Theta_B, \beta_1^* \neq \beta_2^*$)
- $\beta_1^*, \beta_2^* \rightarrow \beta_0, \vartheta_{\beta,n} = |\beta_1^* - \beta_2^*| =: \vartheta_\beta$ に対して $\vartheta_\beta \rightarrow 0, T\vartheta_\beta^2 \rightarrow \infty$ とする。
(変化が小さい場合を考える)

コントラスト関数を β が 1 回変化することを考慮して

$$\Psi_n(\tau : \beta_1, \beta_2 | \alpha) = \sum_{i=1}^{[n\tau]} G_i(\beta_1 | \alpha) + \sum_{i=[n\tau]+1}^n G_i(\beta_2 | \alpha),$$

$$G_i(\beta | \alpha) = h_n^{-1} \text{tr}[A^{-1}(X_{t_{i-1}}, \alpha)(X_{t_i} - X_{t_{i-1}} - h_n b(X_{t_{i-1}}, \beta))^{\otimes 2}]$$

と定める ($M^{\otimes 2} = MM^T, M^T$ は M の転置を表し, $A(x, \alpha) = a(x, \alpha)^{\otimes 2}$).

$$\sqrt{n}(\hat{\alpha} - \alpha^*) = O_p(1), \quad \sqrt{T}(\hat{\beta}_k - \beta_k^*) = O_p(1) \quad (k = 1, 2)$$

を満たす推定量 $\hat{\alpha}, \hat{\beta}_k$ をとる。

注意. 推定量 $\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2$ は [1] や [2] などの変化検出法により変化が起きていない区間 $[0, \tau_1 T], [\tau_2 T, T]$ ($\tau_1 < \tau_*^\beta < \tau_2$) を探し, その区間のデータを用いてそれぞれ構成する。

* 拡散パラメータの変化時刻の推定については Tonaki et al. [3] を参照。

ドリフトパラメータの変化時刻の推定

τ_*^β の推定量 $\hat{\tau}_n^\beta$ を最小コントラスト推定量

$$\hat{\tau}_n^\beta = \operatorname{argmin}_{\tau \in [0,1]} \Psi_n(\tau : \hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2 | \hat{\alpha})$$

で定める. このとき

$$\Xi(x, \alpha, \beta) = \left[\partial_{\beta \ell_1} b(x, \beta)^\top A^{-1}(x, \alpha) \partial_{\beta \ell_2} b(x, \beta) \right]_{\ell_1, \ell_2=1}^q,$$

$$e = \lim_{n \rightarrow \infty} \vartheta_\beta^{-1}(\beta_1^* - \beta_2^*),$$

$$\mathcal{J} = e^\top \int_{\mathbb{R}^d} \Xi(x, \alpha^*, \beta_0) d\mu_{(\alpha^*, \beta_0)}(x) e,$$

$$\mathbb{G}(v) = -2\mathcal{J}^{1/2} \mathbb{W}(v) + \mathcal{J}|v| \quad (v \in \mathbb{R})$$

とおく. ただし \mathbb{W} は two-sided standard Wiener process とする.

Theorem 1

$\vartheta_\beta \rightarrow 0$, $T\vartheta_\beta^2 \rightarrow \infty$ のとき正則条件の下,

$$T\vartheta_\beta^2(\hat{\tau}_n^\beta - \tau_*^\beta) \xrightarrow{d} \operatorname{argmin}_{v \in \mathbb{R}} \mathbb{G}(v)$$

が成り立つ.

数値シミュレーション

1-dimensional Ornstein-Uhlenbeck process

$$dX_t = -\beta_1(X_t - \beta_2)dt + \alpha dW_t, X_0 = x_0$$

- α は変化しない, β_1 は変化しない,
 β_2 は $t = \tau_*^\beta T$ で $\beta_{2,1}^*$ から $\beta_{2,2}^*$ に変化する.
- イテレーション回数 1000.
- $n = 10^6$, $h_n = n^{-4/7} \approx 3.73 \times 10^{-4}$,
 $T = n^{3/7} \approx 373$, $nh_n^2 = n^{-1/7} \approx 0.14$.
- $\vartheta_\beta = n^{-1/8} \approx 0.1778$, $T\vartheta_\beta^2 = n^{5/28} \approx 11.8$.
- $x_0 = 5$, $\alpha^* = 0.5$, $\beta_1^* = 2.5$, $\beta_{2,0} = 5$,
 $\beta_{2,1}^* = 5 + \vartheta_\beta$, $\beta_{2,2}^* = 5$, $\tau_*^\beta = 0.5$.
- $(\beta_{1,1}^*, \beta_{2,1}^*)$, $(\beta_{1,2}^*, \beta_{2,2}^*)$ の推定量 $(\hat{\beta}_{1,1}, \hat{\beta}_{2,1})$,
 $(\hat{\beta}_{1,2}, \hat{\beta}_{2,2})$ はそれぞれ $[0, \frac{T}{4}]$, $[\frac{3T}{4}, T]$ から構成.

Table 1: 推定量の平均と標準偏差.

$\hat{\beta}_{1,1}$	$\hat{\beta}_{2,1}$	$\hat{\beta}_{1,2}$	$\hat{\beta}_{2,2}$	$\hat{\tau}_n^\beta$
2.54981	5.17730	2.54314	4.99981	0.49797
(0.22565)	(0.02047)	(0.24675)	(0.02030)	(0.01341)

- ヒストグラム, 経験分布関数ともに漸近分布にほとんど一致し, 良いパフォーマンスをしていることがわかる.

参考文献.

- [1] Negri, I., Nishiyama, Y. (2017). Z-process method for change point problems with applications to discretely observed diffusion processes. *Statistical Methods and Applications*, 26, 231-250.
- [2] Tonaki, Y., Kaino, Y., Uchida, M. (2020). Adaptive tests for parameter changes in ergodic diffusion processes from discrete observations. arXiv:2004.13998. To appear in *Statistical Inference for Stochastic Processes*.
- [3] Tonaki, Y., Kaino, Y., Uchida, M. (2021). Estimation for change point of discretely observed ergodic diffusion processes. arXiv:2102.06871.

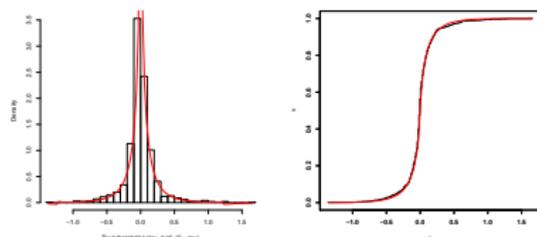


Figure 2: $T\vartheta_\beta^2(\hat{\tau}_n^\beta - \tau_*^\beta)$ のヒストグラムおよび経験分布関数 (黒色) と $\operatorname{argmin}_{v \in \mathbb{R}} \mathbb{G}(v)$ の密度関数および分布関数 (赤色).